

2年 1 資料名 ちょっとだけ、「ひとり」でいることの勇氣
出典 [重松 清 「みんなのなやみ」理論社]
主題名 真の友人関係

ねらい 相手の立場に立って考え助け合うことの大切さを理解し、励まし合い、高め合える真の友情を育てようとする心情を育てる。

道徳内容 B－8（友情、信頼）
友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

主題設定の理由
道徳内容について
真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。友情は、人間として互いの特徴や個性を尊重し、互いに支え、競い合い、高め合うことによって、深まる。心からの友情や友情の尊さについての理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てることが大切である。
生徒の実態と指導の方向について
この時期の生徒は、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。また、親や教師に多くのことをゆだねてきた児童期から、自立しようとする発達の段階にある。しかし、時には相手に無批判に同調し、自分が傷つくことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しかもたないなど複雑な思いにとらわれがちである。そこで、友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であり、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。
資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）
二人組の「余り」になることを恐れる主人公は、回避する手段を画策しつつも日頃から自分の行動に疑問を感じている。気持ちの揺れる主人公を通して、友人との関係に目を向けさせ、本当の友情とは何かを考えさせ、真の友情を育もうとする心情を育てたい。

関連事項
体験活動等の他の教育活動との関連
・ 自然体験活動や遠足、文化祭や体育祭などの学校行事の体験を通して気付いた「真の友情」を生かした授業展開の工夫。
・ 学級活動「適応と成長」の学習との関連付けを図る。
・ 友情とは何かなどについての意見を交換し合う。

板書例

学んだこと
相手の立場に立って考え、助けあうことの大切さを…。
← みんなで分かち合おう
ひとりは不安？
避けたい
筆者 おとなだなー
友人 笑顔で手を振る
資料「ちょっとだけ、『ひとり』でいることの勇氣」
学習課題
相手の立場に立って助け合うことの大切さを…。
テーマ 真の友人関係

評価の視点
○相手の立場に立って考え助け合うことの大切さに気づき、自分の見方・考え方を広げ、深めているか。
○励まし合い高め合うことのできる真の友情を育もうとすることの大切さについて学習したことをもとに、自分はどうかだったか、どう考えたかなどを振り返り、自らの考えを深めているか。

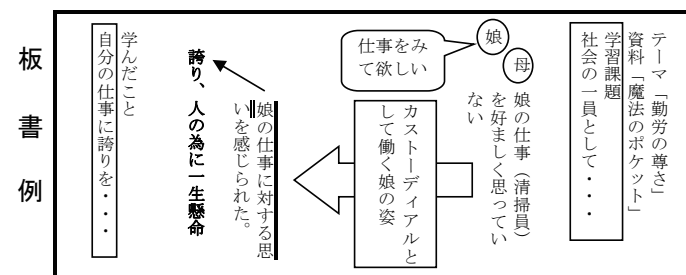
学習指導過程 例

	学習活動（発問と予想される生徒の反応）	教師の支援
導入	1 学校でグループを作るときに困った経験やその時に感じたことについて発表する。	・経験したことを話しやすいような雰囲気をつくる。
展開	【本時の学習課題】 仲間との関係を大切にしなければならないと知りながら、時に自分本位な考えをもってしまう自分を変えるには、どのような気持ちをもって生活することが大切か。	
	2 資料を読んで、次のことについて話し合う。	・教師が範読する。
	主人公が岸辺で手を振っている友だちを見て「負けたなー。」と思ったのはどんな気持ちか。 ・ 一人の状態を受け容れ、笑顔で手を振る友達がおとなに見えた。 ・ 自分がその立場なら、彼のような行動はできないと感じた。	・主人公の行動と比較し、友だちの取った行動に価値を見出した主人公の気持ちに着目させる。
	「ひとりになること」が、なぜ不安な気持ちになるのか。 ・ 悪意をもたれたり、嫌われているわけじゃないとわかっていても寂しい。 ・ 集団の中で人を孤立させてしまう「シカト」が人を傷つける行為だから。	・主人公の心情や、他に挙げられている例から、自分の心の中にある不安の理由に気付かせたい。
閉	ボートの一件で、主人公と野球部の友だちはどんなことを学んだか。	・「ひとり」を回避する行動が、自己中心的であり、真の友情を育んでいく障壁になっていることに気付かせたい。
	相手の気持ちも考えて、「ひとり」をみんなに分ち合おう。 ・ お互いを思いやれる関係の中で、新しい親友ができるかもしれない。	
	【資料を通して学んだこと】 相手の立場に立って考え、人間としての成長を願って励まし合い、高め合うことのできる友情を育てようとする気持ちをもつことが大切である。	
	3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。	・学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、今の自分を乗り越える手がかりとする。
終末	4 「真の友情」とは何かについて考え、ペアワークを行う。	・余韻を残し、内面に浸透するようにしたい。

出典 [鎌田 洋「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」SBクリエイティブ株式会社]
 主題名 勤労の尊さ

ねらい 勤労の尊さについて理解し、将来の生き方について考えを深め、社会に貢献しようとする態度を養う。

主 題 設 定 の 理 由	<p>道德内容 C-13（勤労）</p> <p>勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。</p>
	<p>道德内容について</p> <p>勤労は、人間生活を成立させる上で大変重要なものであり、一人一人がその尊さやその意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、社会生活の発展・向上に貢献することが大切である。勤労を通して社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し、実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことになる。</p> <p>生徒の実態と指導の方向について</p> <p>この時期の生徒は、自分の目的を実現するためや、気の合う仲間と一緒にやる仕事には意欲的に取り組むが、共同で行う仕事などについては積極的に出来ない傾向もある。また、将来の職業選択において、個人の好みや経済性を優先させ、勤労を通して社会貢献することで得られる成就感や充実感にまで考えが及ばない生徒が多い。そこで、勤労の尊さを重んじる生き方を基に、社会における自分の役割や将来の生き方等について考えさせ、自らが積極的に社会貢献しようとする態度を養いたい。</p>
	<p>資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）</p> <p>東京ディズニーランドのカストーディアル（清掃員）として、誇りをもって働く娘と、カストーディアル（清掃員）として働く娘の処遇に納得がいかない母親の葛藤を通して、社会への貢献が充実した生き方の実現につながることを理解し、社会に貢献しようとする態度を養いたい。</p>
関 連 事 項	<p>体験活動等の他の教育活動との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場体験活動やボランティア活動等の体験で気付いた「勤労の喜び」を生かした授業展開の工夫。 ・ 学級活動「学級や学校の生活づくり」や生徒会活動「ボランティア活動等の社会参加」との関連付け。



評価の視点

- 勤労の尊さについて、多面的・多角的に考えることができたか。
- 進んで社会に奉仕しようとする意味や意義について、今の自分はどうか、どう考えるかなどを振り返り、自らの考えを深められたか。

學習指導過程 例

	学習活動（発問と予想される生徒の反応）	教師の支援
導入	1 職業体験で「働いてよかった」と感じたことを発表する。	経験をもとに考えさせ、学習課題につなげる。
	【本時の学習課題】社会の一員として働き、充実した生き方を実現するためには、どのように考えて行動することが大切だろうか。	
展開	<p>2 資料を読んで、次のことについて話し合う。</p> <p>娘がカスタディアルの部署に配属されたことについて、母親はなぜ納得できなかったのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清掃」という仕事を、みじめな、あまりよい仕事とっていないから。 <p>『お父さん、お母さん。私の働いている姿を、見に来てください』この手紙を娘はどんな思いで書いたと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は本当にこの仕事でよかったと思っていることを、働いている姿からわかって欲しい。 <p>「男の子がこぼしたポップコーンを素早くほうきで片づけた」娘を見て、母はどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・娘の仕事に対する思いを知ることができた。 ・娘が一生懸命働いていて安心した。 <p>娘の「仕事に対する思い」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誇りをもっている。 ・ゲスト（人）の為に一生懸命になる。 <p>【資料を通して学んだこと】自分の仕事に誇りをもち、一生懸命働こうと考えて行動することが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読する。 <p>【補助発問】</p> <p>娘はこの仕事をどう思っているのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの仕事 ・「カスタディアル」という仕事に対する母と娘の思いの違いに気づかせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・母に「自分の仕事をわかって欲しい」という娘の思いに気づかせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・娘の仕事ぶりを通して、娘が社会人として充実感をもって働いていることに気づかせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・誇りをもって仕事に臨んでいることに気づかせたい。
閉	<p>3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。</p> <p>資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・把握した価値をしっかりと確認し、時間を確保してじっくり振り返らせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・実践への意欲づけとなるようにする。

2年 3 資料名 生きている、ということ
出典 [岩手県山田町立山田中学校 佐藤 明恵]
主題名 自他の生命の尊重

ねらい 生命の尊厳を理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

道徳内容 D－19（生命の尊さ）
生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

主題設定の理由

道徳内容について

生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。また、生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることが必要である。そして生きていることへのありがたさに深く思いを寄せ、自己以外のあらゆる生命の尊さを理解し、大切にしようとする心情を育てたい。

生徒の実態と指導の方向について

この時期の生徒は、生命について連続性や有限性だけでなく、自分が今ここにいることの不思議（偶然性）、社会的関係や自然界における他の生命との関係性などの側面からより多面的・多角的に捉え、考えさせ、生命の尊さを理解できるようになり、かけがえのない生命を尊重することについてより深く学ぶことができるようになる。そこで、人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもち、大切にしようとする心情を育てたい。

資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）

東日本大震災を経験した主人公は、その災害によって一番の友だちを失った。また罪のない多くの方々がたった一日で犠牲になり亡くなった。このことから、命の尊さや自分の生き方について深く考えるようになった。そこでこのことを通して、生命の尊さを理解させ、自他の生命を大切に生きていこうとする心情を育てたい。

関連事項 体験活動等の他の教育活動との関連

- 自然体験活動等の体験活動で気付いた「自然への畏敬」を生かした授業展開の工夫。

板書例

「生と死」をしっかり考え、自分や他の人の生命を大切に生きていこうと…。

学んだこと

主人公が一番伝えたいことは
生命の尊さ
自他の生命の大切さ

災害を馬鹿にする
何故理解しようとし
辛い気持ちを受け止めて

一番の友だちを…。
↓信じられない

生命を大切に知りながら、生命を軽くみた…。

資料「生きている、ということ」学習課題

テーマ 自他の生命の尊重

評価の視点

○生命の尊さを理解し、大切にしていく為に必要な見方・考え方に気付き、多面的・多角的な見方へ広げようとしているか。

○自他の生命を大切にしようとすることの大切さについて、学習したことをもとに、自分はどうかだったか、どう考えたかなどを振り返り、自らの考えを深めているか。

学習指導過程 例

	学習活動（発問と予想される生徒の反応）	教師の支援
導入	1 「生きていてよかった」と感じた経験について発表する。	・学習への関心を高め、学習課題につなげる。
	【本時の学習課題】 生命を大切に知りながら、生命を軽くみた言葉や行動をとりがちな自分には、どのような気持ちをもつことが大切か。	
展開	2 資料を読んで、次のことについて話し合う。	・教師が範読する。
	一番の友だちを失ってしまった主人公はどんな思いでいるだろうか。	・悲しみの中でも、冷静に振る舞おうとする主人公に気付かせたい。
	・信じられない。 ・過去には戻れないので、その分も頑張っていこう。	
	災害を馬鹿にした人に出会ったとき、主人公はどんな思いであったか。	・多くの犠牲者が出て辛い思いをしている主人公の心情に気付かせたい。
	・何故、理解しようとしなのか悔しい。 ・震災にあった人たちの辛い気持ちをしっかり受け止めてほしい。	
開	「生きたくても生きれなかった人がいる。人のために自分の命を犠牲にした人がいる。……人生を楽しみ、充実させ、一生懸命生きました。』と言えるように。」とるが、この主人公が一番伝えたいことは何か。	・資料を通し学んだことにつながらるように、意図的指名をして意見をまとめるようにする。
	・自他の生命の大切さを伝えたかった。 ・生命の尊さ。	
	【資料を通して学んだこと】 自分も他人もひとつしかない大切な生命があることを改めて考え、自他の生命を大切にしようとする気持ちをもつことが大切である。	
	3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。	・把握した価値をしっかりと確認し、時間を確保してじっくり振り返らせる。
	資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうかだろうか。	
終末	4 教師の説話を聴く。	・余韻を残して終わる工夫をする。

2 年 4 資料名 夢を諦めない

出典 [三浦 雄一郎 「夢をあきらめない」]

主題名 人生を切り拓く

ねらい よりよい自己の生き方を求め、その実現に向けて人生を切り拓いていこうとする意欲を高める。

道徳内容	A－5（真理の探究、創造） 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。
------	--

主 題 設 定 の 理 由	<p>道徳内容について 真理とは、だれも否定できない普遍的で妥当性のある物事の筋道、道理を指し、真実はうそや偽りのないことである。そして、真理を愛し、真実を求め続けることが、理想を持って自分の人生を切り拓く原動力になる。</p> <p>生徒の実態について この時期の生徒は、人間としての生き方や社会のしくみなどについての関心が高まってきて、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなる。しかし、その描く理想は必ずしも自分の置かれている現実についての認識に立っているものではなく、自分を過大視したり、安易に現実妥協したり、集団の中に埋没して主体性を失ったりして、ときには絶望したりすることもある。</p> <p>資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点） 主人公(三浦雄一郎)のあきらめずに取り組む姿や思いを通して自分の内面を見つめながら、よりよい自分の生き方を求めることの大切さを理解させ、その実現に向けて、人生を切り拓いていこうとする意欲を高めさせたい。</p>
---------------------------------	---

関 連 事 項	<p>体験活動等の他の教育活動との関連 ・ 職場体験活動等の体験活動で気付いた「自分の生き方」を生かした授業展開の工夫。 ・ 学級活動「学業と進路」の学習との関連付け。</p> <p>私たちの道徳との関連 関連ページ P32～37 導入で「真理・真実・理想を求め人生を切り拓く」を読み、終末で「夢や理想の実現のためには、…」に記入する等の活用が考えられる。</p>
------------------	--

板 書 例	<div>テーマ 人生を切り拓く 資料「夢をあきらめない」 学習課題</div> <div>よりよい自分の人生を実現するためには…。</div> <div>筆者 六十五歳 夢や目標もない 八十歳 可能性がゼロでない チャレンジする権利</div> <div>今 「自分」をあきらめてはいけない ← 自分の可能性を見限った瞬間に心の寿命は尽きてしまう。 学んだこと</div> <div>夢を実現しようとする気持ちをもって…。</div>
-------------	--

評 価 の 観 点
○ よりよい自己の生き方を求めることの大切さが理解できたか。
○ その実現に向けて人生を切り拓いていこうとする意欲を高めることができたか。

学習指導過程 例

	学習活動（発問と予想される生徒の反応）	教師の支援
導 入	1 自分の夢や目標について考え、またどのような取り組みをしているか考え、発表する。	・ 今の自分を見つめ、学習課題につなげる。
展 開	【本時の学習課題】 よりよい自分の人生を実現するためには、どのような気持ちや考え方をもちことが大切なのだろうか。	
	2 資料を読んで、次のことについて話し合う。	・ 教師が範読する。
	筆者が「自分は今いったい何をしているのだろう。」と思ったのはなぜだろう。 ・ 身近なところに、こんなにも頑張っている人間がいるのに何もしていなかったから。 ・ 夢や目標もなく、だらだらと生きていたから。	・ 多様な考えを引き出すように配慮する。
開	筆者が八十歳でのエベレスト登頂を経て、どのような思いを持っただろうか。 ・ 可能性がゼロではない限り、人間にはチャレンジする権利がある。 ・ 自分の可能性を捨ててはいけない。	・ 筆者が身をもって実感した思いをとらえさせたい。
	「死んだほうが楽だ。」という苦しい思いに打ち勝とうとしている筆者の考えとはどのようなものだろうか。 ・ あきらめることは簡単だが、人生はつまらないものになってしまう。 ・ 年齢を重ねてあきらめることが増えたとしても「自分」をあきらめてはいけない。 ・ 夢をもつことを止めてはいけない。	・ 自分の可能性を信じて、苦しみ負けずに、夢に向かっていく気持ちをもたせたい。
	【資料を通して学んだこと】 夢を実現しようとする気持ちをもって、困難に負けずに生きていこうとする意欲をもつことが大切である。	
終 末	3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。	・ 学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、今の自分を乗り越える手がかりとする。
	資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうか。	
終 末	4 「私たちの道徳」P34～37を読み、自分の考えをワークシートにまとめる。	・ 自分の道を切り拓こうとする意欲を高めたい。

出典 [横浜市立中学校教育研究会道德教育部会]
主題名 規則正しい生活習慣

ねらい 心身の調和を図ることの大切さを理解し、進んで規則正しい生活習慣を身に付けようとする態度を養う。

道徳内容 A-2（節度、節制）
望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り
節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。

道徳内容について

「望ましい生活習慣を身に付ける」とは、それを行うことで心身の健康の増進を図ることができる行為を、日常生活において日々繰り返すことによって、殊更意識せずに行うことができるようになることである。自己を保ち生きていく上で心身が健康であることは大切であり、食事・睡眠・運動の大切さについて改めて学ぶ必要がある。

生徒の実態と指導の方向について

この時期の生徒は、心身ともに著しい発達をみせ、活力にあふれ意欲的な活動ができる。しかし、心と体の発達が均衡しているわけではなく、軽はずみな行動で健康を損なったり、衝動にかられた行動に陥ったりすることもある。そこで、望ましい生活習慣を身に付けることなどが、充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚させ、進んで規則正しい生活習慣を身に付けようとする態度を養いたい。

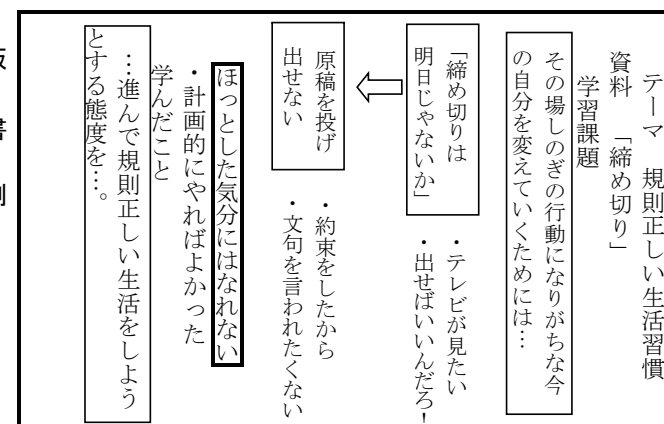
資料とその取り扱いについて（資料活用上の留意点）

光雄がとったその場しのぎの言動について考えることを通して、ねらいとする計画的に生活することの大切さや進んで節度のある規則正しい生活習慣を身に付けようとする大切さに気付かせたい。

体験活動等の他の教育活動との関連

- ・自然体験活動等の体験活動や日常生活で気付いた「心身の調和の大切さ」を生かした授業展開の工夫ができる。
- ・体育科での保健学習と連携を図り、生徒の意識の向上を図ると効果的である。

板
書
例



評価の視点

○心身の調和を図ることの大切さについて、多面的・多角的な見方に触れ、考えることができたか。

○自分自身の生活と照らし合わせて、学んだことを基に、自分はどうかだったか、どう考えるかなどを振り返り、考えを深めているか。

學習指導過程 例

	学習活動（発問と予想される生徒の反応）	教師の支援
導入	1 生活習慣に関する事前アンケートを基に、自分たちの生活習慣の問題点を探り、発表する。	・ 発表しやすい雰囲気をつくる。
展開	<p>【本時の学習課題】 その場しのぎの行動になりがちな今の自分を変えていくためには、どのような見方・考え方が大切だろうか。</p> <p>2 資料を読んで、次のことについて話し合う。</p> <p>「締め切りは、明日じゃないか。」と言った光雄はどのような気持ちであったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビがいいところなのにいるさいな。 ・ 母に聞かれたくない。 ・ 出せばいいんだろう。 <p>光雄はなぜ原稿を投げ出すわけにはいかなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安野君と約束してしまった。 ・ 友だちから文句を言われたくない。 <p>感想文を提出したにもかかわらず、光雄がほっとした気分になれなかったのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分でも納得できる原稿ではなかった。 ・ 友だちの反応が気になる。 ・ 計画的にやればよかったという反省。 <p>【資料を通して学んだこと】 まずは目標をもって計画的に取り組むことと、進んで規則正しい生活をしようとするのが大切である。</p>	<p>・ 教師が範読する。</p> <p>・ 安野君の言葉を素直に受け入れられない光雄の態度から、節度のない生活の実態をつかませる。</p> <p>・ 自己中心的な言動をとりながらも、やらなければいけないと思っていることに気付かせたい。</p> <p>・ 自分自身が納得のいく原稿を書けなかったことを反省していることに着目させる。</p>
	<p>3 今の自分を振り返り、次のことについて話し合う。</p> <p>資料を通して学んだことに照らして、今の自分はどうかだろうか。</p>	<p>・ 学習課題に注目させ、今の自分を振り返り、今の自分を乗り越えさせる手がかりとする。</p>
	<p>4 ワークシートに自分の生活習慣について記入する。</p>	<p>・ 問題点ではなく「よい生活習慣」に目を向けて考えるように声掛けをする。</p>
終末		